

広島大学（広島県東広島市、北広島町）

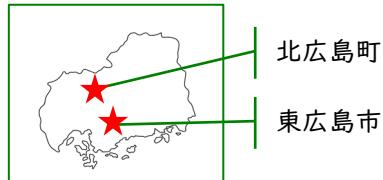
R5補正
R6当初

60

背景・課題

県内の耕作放棄地は狭小な水田・畑が多い状況。耕作放棄地の解消を図る手段の一つとして、農業者や地域の事業者が主体となって低圧型営農型太陽光発電に取り組むことが有効と考えられた。

農業と発電を両立し、その収益を地域内で循環することができれば、再エネ導入が進むと同時に地域活性化に繋がることが期待される。他方、地域の農業者の多くはこれまでに未経験であるため、まずは具体的なモデルの構築が不可欠となっていた。



構成員

広島大学、広島県、東広島市、北広島町、農業者、食品事業者、発電事業者（北広島町はオブザーバー参加）

品目

大豆、大麦等

成果目標

目標年度：令和6年度

広島地域における最適な太陽光パネルの設置方法や営農方法について調査・検討し、地産地消型営農型太陽光発電の地域モデル事例を作成する。

主な取組内容

広島県の中山間地域の持続可能な発展に貢献する営農型太陽光発電モデルを作成するため、推進会議開催と先進事例調査等を実施している。具体的には、

- 遮光率による栽培作物（大豆、大麦等）への影響等を調査
- 太陽光パネル下での作業性や強風対策を考慮した架台のサイズ等を調査
- 先進事例調査として千葉県匝瑳市の営農型太陽光発電の事例等の調査を実施

地産地消型営農型太陽光発電の地域モデルを作成・検証し、その収益性や有効性を明らかにする。



●推進会議の開催



●先進事例調査（千葉県匝瑳市）

普及に向けた取組

広島モデルを構築して農業経営を一層安定させるため、R7年度以降、当該モデルに基づく営農型太陽光発電設備の設置を検討し、地域への普及を図っていく方針である。

問い合わせ先

広島大学 Town&Gown未来イノベーション研究所
TEL : 082-424-7824